

「教材開発」と「メンター育成」のポイントとは

プログラミング教育事業推進会議 委員 平井聡一郎氏

モデレータの平井氏は「教材開発のポイント」として、以下の視点を挙げた。

1. 教科内か教科外か。単なる体験だけでなくカリキュラムとしても考える必要がある。
2. アンプラグドとプログラミング。入れるタイミングやバランスなどを意識する。
3. 目的意識の明確化。何を獲得するのか、目的にフィットした教材であること。
4. 地域の力を盛り込む。プログラミングを根付かせる力として有効と思われる。
5. 学習者の実態把握。誰が学ぶのか、公平さも意識して望ましい教材を開発する。
6. 教科・授業に活かせる「汎用性」。シンプルで、低価格であれば続けやすい。

また、「メンター育成のポイント」には以下の視点を挙げた。

1. 答えを「教えない」で、自ら考えるヒントや示唆を与えるよう、意識する。
2. 学校の仕組みの中で、授業や放課後活動、クラブ等に組み入れることを考える。
3. IT技術なのか、教える技術なのか、メンターに不足する部分をサポートする。
4. 属人的にならず教材同様に「誰でも教えられる」ようにして継続性を担保する。
5. メンターのスキル評価および、子どもを評価するためのスキルマップ等を考える。
6. ゴールを明確化して関係者の合意形成を行うことで、継続性を担保する。

今後は、こうした知見を共有しながら各地域や学校でプログラミング教育における教材づくり、メンター育成を進めることになる。